

神勝禅寺 松堂

神勝寺に入るとまず目に入るのが「松堂」です。寺務所、案内所、ショップを兼ねた建物ですが、それ自体とても魅力的な存在です。

松堂とは読んで字の如く「松のホール」という意味です。赤松は瀬戸内地方を象徴する木なのですが、この建物を貫くテーマにもなっています。建物を設計した藤森照信氏は建築史家でもあり、植物やオーガニックな素材を使った斬新な設計で知られています。氏は周囲の山々に溶け込むよう、松堂の屋根に地元産赤松を植え込みました。屋根は土台としてこれら赤松の立ち木を支えています、その屋根は粗削りの地元産赤松の梁と柱で支えられています。丸みを帯びたデザインがとても魅力的な建物です。

屋根はちょっと見ると伝統的な藁葺き屋根に見えますが、実際はボランティアが手で曲げた銅板で葺いたものです。屋根の一部は円錐形で、廂が地面にくっつきそうな特徴的な形をしています。この部分は周囲の山々を連想させ、ざらりとした漆喰の壁と相まって魅力的なエントランスになっています。ここはまた、展示物の展示や物品販売に便利な屋外スペースとしても利用されています。